西播磨地域夢会議の概要

◆日　　時：平成２２年３月６日（土）13:30～16:00
◆場　　所：宍粟市役所　１階市民ロビー及び４階会議室
◆参加人数：約１５０名
◆主　　催：西播磨地域ビジョン委員会・西播磨県民局

１．開催趣旨

２１世紀初頭の西播磨づくりをめざし、地域住民、団体などが共有できる将来像を描き、その実現に向けた住民と行政の行動指針として「西播磨地域ビジョン」を平成１３年に策定してからおよそ９年が経過した。これまでビジョンの実現に向けたさまざまな取り組みが行われ、そして新たな課題も見えてきた。

人口減少、少子・高齢化が進む中で、「これからの地域づくりに必要なビジョンとは何か」という視点から、“光り輝く西播磨地域”を実現するために、広く意見交換を行う「西播磨地域夢会議」を開催した。

２．テーマ

「幸せ発信！西播磨」
～“わっ！”で未来へつなげよう～

３．プログラム

（１）【第１部】プレゼンテーション
「西播磨の未来、兵庫の未来」　西躰和美　兵庫県ビジョン担当課長

（２）【第２部】ワークショップ（テーマ別討論）
・『健やかな子どもを育てよう』（人の輪社会）
・『子ども達に贈る安心な西播磨』（安心安全社会）
・『西播磨の豊かな自然と農村の振興』（環境王国）
・『伝えたいふるさとの誇り』（西播磨きらきら）

（３）　交流会（休憩）

（４）【第３部】全体討論
・ワークショップの結果発表、意見交換、専門委員コメント
・高校生による意見発表
・総括コメント

４．【第１部】プレゼンテーション（要旨）

「２１世紀兵庫長期ビジョン」の策定（2001 年）から９年、目標年次（2015 年）の中間年を過ぎ、ビジョン策定後に生じた新たな時代潮流や様々な課題、これまでの地域ビジョン活動の成果などを踏まえ、地域の姿（ビジョン）を再度確認しながら将来像を考える時期になっている。

西播磨の将来像を考えるための素材として、見直し・点検の要因となる社会の変化や課題の例示がされた。

①人口減少社会

西播磨地域の人口は 28 万人から 20 万人に減少する(2005 年→2040 年)と予測される。人口減少の克服に向け、出生率の向上、移住人口や交流人口の拡大が考えられる。

②創造的市民社会

急速な高齢化の進展や世帯の縮小に加え家族や地域のつながりが希薄化してきている。高齢者の活躍や地縁・血縁にかかわらない新しいつながりが広がる社会に。

③環境優先社会

地球温暖化の進行で温室効果ガスの削減が不可欠になっている。太陽光やバイオマスなど自然エネルギーで自給持続する社会に。

④仕事活性化社会

就業者人口の減少、地域経済の活力維持が課題。ライフステージに合わせた勤務形態の採用など、誰もがその個性に応じ能力を発揮できる社会に。

⑤多彩な交流社会

進む人口の偏在化、空き家や耕作放棄地の増加。商店街を暮らしを支える場（買い物・医療・福祉）に、「二地域居住」など田舎とつながるライフスタイルの提案。

５．【第２部】ワークショップ（要旨）

予め設けられた４つのテーマに基づき、各テーブルでワークショップを行い、第３部全体討論でテーマ毎に結果発表を行った。参加者は討論ポイントに沿った意見を自由にフセンに記入し、グループの意見が出そろった時点で解決策や行動案を討議した。

ワークショップテーマ	討論のポイント
健やかな子どもを育てよう	・安心して子育てできる家庭や地域をつくるためには
子ども達に贈る安心な西播磨	・災害から家族の命を守るためには ・地域のつながりを深めるためには
西播磨の豊かな自然と農村の振興	・未来に豊かな自然を残すためには ・活力ある農村にするためには(放棄田の活用等)
伝えたいふるさとの誇り	・あなたが、西播磨の誇りと聞いて思いつくものは ・西播磨の魅力を再発見して、発信し、地域の活性化につなげるためには

６．【第３部】全体討論（要旨）

第３部全体討論では、第２部で討論したテーマ毎に発表者から発表してもらい、専門委員や会場の皆様のご意見をうかがった。

また、西播磨の将来像を語るうえで若者の意見は欠かすことができないことから、開催地である宍粟市の将来を担う若者を代表して山崎高校、伊和高校、千種高校の３校も意見発表を行った。

（1）人の輪社会「健やかな子どもを育てよう」の発表要旨

【発表者：西播磨地域ビジョン委員　竹添和彦】

我が国の良き伝統や家族間のつながりが希薄化してきている。温故知新の考えで古い時代の指針を学んでいきたい。

『孝経』※1に「身体髪膚之れを父母に受く。敢えて毀傷せざるは、孝の始めなり。身を立て道を行ひ、名を後世に揚げ以って父母を顕はすは、孝の終わりなり。」※2という言葉があるが、人間の命は、祖父母、親とずっと続いてきた命だということを、子どもたちに認識してもらえば、命が一番大事ということがわかってもらえる。

子どもを育てるには家庭が一番大事であるという意見もありました。やはり親が手本を見せないといけない、生きた手本を見せることが大切です。挨拶、食事、躾など色々ありますが、親が手本を示していない。親も勉強をして良いことは身に付けて実践してもらいたい。そうすることで食育や生活習慣、悩み事の相談など色々な事がでてくる。それをフォローするのが地域。地域が大きな家族としての役割を果たす必要がる。他の家の子どもも褒めるし、叱るし、地域パトロールなどにも関わっていくことを通じて、家庭と地域がつながり、「その地域いいな」と都会から見ても言われる地域を作って子ども達を育てたい。

※１　孝経（こうきょう）は、中国の経書のひとつ。曾子の門人が孔子の言動をしるしたという。

※２　人の身体は、毛髪や皮膚に至るまで全て父母から頂いたものである。これを大切に扱い、たやすく損なったり傷つけたりなどしてはならない。それが孝の始まりとして実践するならば、立派な人という評判を得、その名を後世に伝える事が出来、父母の誉れとなる。それが孝の実践の完成というものである。（事務局訳）

【会場意見】

親が手本を示すということだが非常に難しい。その具体的な例を教えてほしい。

【発表者意見】

あいさつ（おはよう、おやすみ、ありがとう）がまず大事。私が実践しているのは、仏壇に詣ったり、お土産はまず仏壇に供えるなど祖先を尊ぶ心を教えている。

【坂本専門委員】
私にも３人の子どもがいるが、家庭での教育といわれても思うようにいかなくて難しいところがある。子育て世代の親もストレスを抱えており、子育てをこなす力がなくなってきているのではないか。
地域に誇りをもって、地域の子どもは地域で育てるという気持ちを持てば、安心して子どもを生み育てることができ、子ども達も健全に育つ。
地域に住む人がその地域を作るわけであるから、地域全体がそういう気持ちを持つことで、親にとっても生み育てたい地域になる。
３０年後には西播磨では６５歳以上の高齢人口が４０％を超えるといわれているが、そのような地域になればその予測も覆せるのではないか。みなさんの活動の積み重ねが、よりよい西播磨をつくることを期待している。

（２）安心安全社会「子ども達に贈る安心・安全な西播磨」の発表要旨
【発表者：西播磨地域ビジョン委員　山本冨士子】
「災害から家族の命を守るためには」と「地域のつながりを深めるためには」の２つを討論のポイントとして挙げた。
この宍粟市でも大被害を出した昨年の台風第９号による水害を踏まえて、テーマとした。災害に対しては地域のつながりを深めなければならない。子ども達に「地域を大切にすること」「過去の経験を学ぶこと」を私たちの言葉で伝えなければならない。

西播磨の住民が地域のつながりを密にしていくことが必要不可欠。お年寄りはお年寄り、大人は大人、子どもは子どもというように分割された社会ではなく、世代間の隔てなく付き合うことが必要。地域のつながりを密にすることで災害のない、災害があってもすぐに対応のできるような西播磨をつくりたい。
【谷川専門委員】
東京から戻って鼻をかむとティッシュが真っ黒になるが、この西播磨に来てから７年はそれがなく、豊かな自然の賜物であると言える。
災害というものは起きて欲しくないもの、起こしたくないものである。いざ起こってしまった場合、子どもというのは、まだまだ命の大切さに気づけないでいる場合が多い。命と言うのは時間のことであり、その人の時間を大切にしなければならない。
家族、地域、子ども達、西播磨など色々なキーワードが出ていたが、改めて家族とは、地域とはなんぞやと考え直す必要がある。家族には「つながり」というのが大事であり、「つながり」とはネットワークであり、ネットワークを広げることで絆が生まれる。
絆でつながった地域というのは単なるエリア、district（区域）ではなくコミュニティの意味を持つ。そのコミュニティの中で、例えば災害に対しては、事後ではなく事前に何をどうするかという予防の観点、あるいは災害に見舞われた家族から学ぶ、そして災害にあわれた地域から学ぶというのが大切なことである。

（3）環境王国「西播磨の豊かな自然と農村の振興」の発表要旨

【発表者：西播磨地域ビジョン委員　小沼寛樹】

去年の台風第９号災害では、山や畑が荒廃していたため被害が拡大したという意見もあり、特に農村部では荒廃している畑を多く見る状態である。害獣の問題も含めると環境的に生活できない地域もある。自然と共存しなければならないが、そのためにも若い人たちが農村に入れる仕組みをつくりたい。若い人も含め交流人口が多くなれば山や畑に入る機会が生まれる。山の環境が整備されれば、害獣被害も減り、それだけ水害に強い森林をつくることができる。森林を豊かにすることが大事であり、間伐材の有効活用やバイオ燃料を活用したい。

海や河川の汚染もあるが、自然環境は循環しているので、上流域にある山や農村から始めることで下流域に活動が広がり地域活性化につながるのではないか。非農家による野菜作りの推進や若者が農業に来られる環境づくりにより、農業に人が集まるしくみをつくりたい。

【会場意見】

佐用町では鹿の被害で大変なことになっている。鹿やイノシシの被害がでるようになってから野菜もつくれなくなったという現状を皆さんに知ってもらいたい。

夢会議で地域ビジョンを考える前に、現状をしっかり把握し、鹿の被害を食い止めていただきたい。

【熊谷専門委員】

農業も含めて林業、漁業など自然と関わっている産業が、特に自然の変化に影響を受ける。水害の話もあるが、人が自然環境と関わらなくなってきたことも少なからず影響していると考えられ、海に関わらなくなってきたことによって漁業も影響を受けている。特に林業はその影響が顕著ではないか。

鹿の被害も、人間が少なくなってきたために山に人が入らなくなり、手入れをしなくなってきたことにより悪化している。

環境の問題だけで解決出来る問題ではないが、その自然環境を逆手にとって魅力あるような地域性なり特産品をもっと出していければ好転するのではないか。西播磨地域の中だけではなく、都会からも人や力が入ってくるような仕組みも入れていかなければ西播磨の自然を今後維持していくことは難しいと思われる。

（4）西播磨きらきら「伝えたいふるさとの誇り」発表要旨

【発表者：西播磨地域ビジョン委員　重兼亘】

西播磨には誇るべき様々なものがあり、赤穂城、忠臣蔵の世界、龍野城や平福の景観も捨てがたいが、全員が一致するところはやはり自然である。千種川、揖保川それが支流に注ぎ込む風土のなかで、蛍、鮎などが育ち、和紙が作られたり、大きな椋の木が育っている。そして、もっとこれらの誇りを伝えていかなければならない。

伝え方というのはなかなか難しいが、みんなが汗をかいて少しずつでいいから伝えていこうという意見が挙げられた。

宍粟警察署は兵庫県内で１番の管轄面積を誇るが、そのようなことはなかなか知ることができない。身近なところでも知らないことがたくさんあり、最近はあちこちで減反のあとに花作りをしている人もいるが、新宮では親子２代にわたって筋金入りで５０年間花作りをしている方がいる。

みんなが知らないことを少しずつ引っ張り出して伝えていくことによって、ふるさとの誇りというのは作り上げられていくのではないだろうか。みんなできることを少しずつ行い、西播磨というのがすばらしいというのを伝えていきたい。

我々の仲間で打ち水というのを去年提案したが、水害被害により実施できなかった。今年は是非やりたいと思っているので、ご協力よろしくお願いします。

【依田専門委員】

発信の方法ということで発表されたが、26 年前に佐用町に入ったときから「佐用あるいは西播磨の誇りはなんですか」と言えば、どこでも今日と同じような意見が 26 年前からずっと挙がっている。その誇りが全国に知られてないというのは、それを地元の人があまりにも知らないということが一因である。今日の参加者の中に、佐用町にある天文台、テクノにある Spring-8 に２回以上行ったことのある方が何人いるか。もっと地元のことを知って、それを発信していく方法を考えるとことが大事ではないか。

例えば鹿肉にしても、食べたらおいしいのに地元の評価が低く、実際にイタリアにいけば１００ｇが３，４千円で売られており、そういう逆手にとる方法も考えないといけない。西播磨地域外の人は鹿肉や Sprinng-8、なゆたなどに目がいってるのに地元の目がいってない。色々な運動をしているリーダーに対するメンバーシップ、皆さんの考え方が「あいつがやっとんならほっとけや」という他人事の扱いというのが一番の問題であると感じる。

いかに情報を発信していくか、今日の参加者に少ない年代（お父さん世代）も巻き込み考える必要がある。

（5）高校生意見発表

【山崎高校　上山直人】

山崎高校森林環境科学科は県下でただ一つの林業学科です。おおきく分けて森林、環境、林産、木材加工の各分野について学習している。座学はもちろんのこと実習も行っている。実習では木材加工、樹木調査、森林測量、在籍調査などの専門的な実習と、佐用町船越にある演習林や町内の民有林において、杉、檜の植林、枝打ちや伐木、下草狩りなどの基礎的な自習を行っている。植林・伐木自習では地元の林業家や森林組合、また森林管理所、農林事務所の方々にご指導いただき、チェーンソーを使って木を切ったり高性能機械を使い実習をしている。また、里山整備も地元ボランティアの方々と一緒に町内をはじめ波賀町や御津町において実施している。

木材加工実習では椅子や机の製作に加え、一昨年より杉の間伐材を利用し、幼児向けの木馬や木のおもちゃを製作している。おもちゃ作り名人の指導をうけ、一年かけて作りあげていく。木馬の製作では、なめらかな曲線を作り出すために紙ヤスリで何時間も磨く。塗装もアレルギーを考慮した自然の塗料を利用し、人と環境に優しい物作りに取り組んでいる。木のおもちゃ作りでは、子ども達に木の温もりを知ってもらうために全ての部品を丁寧に磨き、肌触りをよくしている。これらの作品を市内の園児たちに届け一緒に遊んだ。園児達の笑顔を見ていると作った喜びと充実感がわいてきた。

私は宍粟に生まれ宍粟に育てていただいた。森林環境科学科で学んだ知識を活かして、将来は木材加工関係の職業に就きたい。そしてみんなの笑顔があふれる町になるように、それが地元に対するわずかばかりの恩返しではないかと思う。

【伊和高校　細川さやか、田中裕也、小田早織】

五年前に伊和高校にカヌー部ができました。３年前にカヌーがインターハイの正式種目になってから連続出場を続けている。はじめて出場したインターハイでいきなり全国11 位、入賞者も多く出した。平成 18 年の兵庫国体では４位入賞、平成 19 年の秋田国体ではシングルで全国優勝。カヌー部と伊和高校の誇りである。

カヌー部の練習は毎日早朝のトレーニングから始まる。筋力トレーニングを学校のトレーニングルームや体育館で行い、乗艇は波賀町にある引原ダムまで行って練習している。

部員は現在１、２年生で９名。地元の中学校にカヌー部がないので募集するのに苦労している。でも私たち部員は体力と精神力を強化しながら、先輩の功績を引き継ぎ、記録を抜くために毎日頑張っている。

私たちが毎日練習している引原ダムには、平成 19 年の春に完成した日本に３つしかない１０００mの常設競技コースがある。景色、水の美しさ、コースなど、日本一の練習場といえる。県の施設であるカヌーハウスと艇庫を宍粟市のご厚意で使わせて頂いている。こんなすばらしい引原ダムを私たちだけで使っているのはもったいない。

県や近畿の大会をできるようになりましたが、もっと多くの大会を行ってほしい。全国のカヌー選手に宍粟市のすばらしさとこのコースを知ってもらいたい。また兵庫県や宍粟市の人たちに、そして全国の人たちに引原ダムのすばらしさを知ってもらいたい。兵庫県民や宍粟市民が参加できるようなイベントや大会を企画してほしい。それが私たち伊和高校カヌー部を知ってもらう良い機会にもなるし、地域の活性化にも必ずつながる。引原ダムがカヌーで有名になると宍粟市ももっと発展するのではないか。

【千種高校　立道由菜、井口実咲希、下庄公裕、平瀬瑛啓、橋本誠吾】

私の夢は管理栄養士になり、千種の給食センターや福祉関係などの仕事に就き、みんなが笑顔で健康的な食生活をおくれるようにサポートすること。

私は野球部に所属している。夢は本戦で勝ち上がっていくことで、そのことで千種町がもっともっと活気づいてみんなが元気になるきっかけとなりたい。

私の夢は自動車整備士になること。そして皆さんの車を整備して車の不安を取り除いて、皆さんに安全で安心な車に乗っていただきたい。

私の夢は野球で鍛えた心と体を活かし警察官になり、宍粟市の安全を守り、安心して暮らせる町をつくること。

私の夢は千種高校が地域の人に応援され支えられ続ける学校であること。

登下校の時地域に人に挨拶をすると嬉しそうに挨拶を返してくれる。挨拶を交わしあえるということは千種高校を認め応援してくださっているからだと思う。千種高校の生徒はみんな夢を持っている。その夢を叶える為には千種高校の存続が必要であり、その千種高校を存続させる為には地域の応援が必要。

今千種高校では地域の方に認めて貰えるよう色々なところで生徒一丸となって頑張っている。一つ目は挨拶に力を入れている。校内外問わず挨拶をするように心がけている。二つ目はいつでもオープンな学校であること。オープンスクールや行事に地域の方が参加し、私たちが頑張っている姿を見て貰うことで地域の方に認めて貰えるよう努力している。三つ目は千種中学校との連携型中高一貫校になったことで地域に根付いた学校になったこと。今私たちが千種高校で過ごせるのは地域の方が応援し支えて下さっているからで、そのことに感謝し、これから先何年、何十年と地域の方が応援し、支えて下さる千種高校の中で私たちは頑張って夢を叶えていきたい。

（6）総括コメント

【吉本副知事】

いつもは知事が来てお話をさせていただくが、急遽公務が発生しまして欠席となり、誠に申し訳ありませんが私の方からお話をさせていただく。

皆さんの発表を聞いて、非常に熱心にご討議をされている、そして、地域を愛していると言う気持ちをひしひしと感じた。参画と協働の精神がこの西播磨地域に定着していることを実感した。

人の輪社会では「命のつながり」ということを発表された。県でも子ども達が小学校３年生のころ環境学習の一環として花を育てたりすることで、命はつながっていくということを学習することに取り組んでいる。また、家庭や地域での「つながり」という話があった。私の子どもが高校生のころ、オーストラリアの留学生が家に半年ぐらいホームステイしたが、その方が日本の学校はおかしいと言われた。授業時間中に他の本を読んでいても先生は叱らない。英語のオーラルコミュニケーションでも、発音練習の時に帰国子女の方が、ネイティブの人が聞いてもすごく上手に発音しているのに先生は褒めない。褒めない、叱らない。これはおかしいのではないかと言われて私自身ドキッとしたことがあった。家庭でも地域でも、悪いことをしたら叱る、良いことをしたら褒めるということを当たり前のようにできるような社会であったのが、いつのまにかそういうことをしない社会になってしまったのではないか。それを外国の高校生の方に指摘され、社会全体として取り組んでいかなければならないと痛感をさせられた。人のつながりを大事にしていく、良いことは良い、悪いことは悪いということをきっちり発信していくことが不可欠である。

安心安全社会では「子ども達に贈る安心な西播磨」というテーマでしたが、この宍粟市をはじめ、台風第９号の被害にあわれた地域の皆様方には衷心よりお見舞いを申し上げる。地震だけでなく台風などに対する日々の備え、予防の部分でも家庭や地域でのつながりが、きわめて大切である。仮に被害があっても救われる部分、被害を軽くできる部分がある。「つながり」を大事にしていくということが大切であると思いました。

環境王国では自然と農業のお話がでていました。特に農業と人との関係、若者が集まってくるのが大切であるとのことだが、そのとおりだと思う。人口減少社会の中で、２次産業、３次産業に向かっていった人が、農業をはじめとする１次産業に戻ってくるということもありうる。そのためには農業が魅力のあるものだということを発信していく必要がある。県としても担い手の育成や地域のブランド力の強化に皆様方と取り組んでいきたい。

西播磨きらきら分科会の発表ですが、確かに、森林、川、海とこれほどすばらしい自然をもっている地域はなかなかない。潜在的な西播磨地域の魅力というものはすごいものがある。歴史遺産、Spring-8 に代表される科学技術。専門委員のコメントのように、地域の魅力を自分たちでまず自覚をして、発信していく。まさしくその通りだと思う。

今、高校生に日本の文化をもっと知ってもらおうという取り組みを行っている。海外

に行ったときに日本の良さを話せない、日本の文化を話せないということがあり、もっと勉強しておけばよかったと痛感するようである。子ども達に、もっと日本の伝統・文化を知ってもらう取り組みが必要だと思う。やはり地域を愛すると言うことは、まず地域を自分たちで知ることが一番の始めである。

鹿の被害対策については、知事も非常に危機感をもっており、今まで相当数の鹿の捕獲を行っている。来年度は 1.5 倍の２万頭を３万頭捕獲しようと取り組んでいる。また、鹿肉の普及にも取り組んでいきたい。被害を防ぐための防護策についても、出来ることは何でもやってみようと、来年大作戦を展開したいと考えており、皆様から色々なアイデアをお教え願えれば果敢に挑戦していきたい。

山崎高校の生徒の皆さん。地域の木材を使った地域活動あるいはＰＲを高校生の皆さんが実践していることに、本当に感心した。是非、その夢を実現してもらいたい。県では今年の１２月の稼働に向けて県産木材供給センターの整備を進めている。引き続き県産木材の利用を推進したい。

伊和高校の皆さんからは、カヌーで地域おこしをというお話しだった。１０００mのカヌー競技場に加え、今年の春にはグラブハウスと艇庫の整備が完了する。カヌー部のみなさんにはダムを拠点に頑張っていただいている。これも市民全体、地域全体でさらに盛り上げてもらえればと大いに期待している。

千種高校の皆さんはそれぞれの夢を語ってくれた。挨拶で地域とつながり、地域の方に認められる高校として存在感を示していきたいとのお話でした。中高一貫教育ですが、県内最初の取り組みとして是非とも実現していきたい。千種高校の生徒の皆さんは、県の取り組みのパイオニアとして是非ともすばらしい中高一貫校を作っていただきたい。

今回の発表のキーワードは「つながり」だったと思う。本格的な人口減少社会を迎えるが、地域や家族のつながり、あるいはその交流が最も大切で、それがきちんとできていくことが必要だと思う。地域の資源を活かした交流、「つながり」で家庭や家族の絆を深めていく、こういうことで西播磨の魅力をもっともっと発信されることを期待している。今後とも新しいビジョンの改正に向けて一緒に努力をさせてもらいたいと思うので、よろしくお願いしたい。

７．地域夢会議を終えて

【閉会挨拶より～抜粋～】

西播磨地域夢会議開催にあたり宍粟市のご協力によりまして、市役所を休日にもかかわらずお借りすることができた。重ねてお礼申し上げたい。

今回、西播磨地域から多数の皆さんにご参加いただき、ワークショップでは熱心な討論をいただいた。たくさん意見も出していただいた。時間が短く討論がまだ不十分だった点もあると思うが、全体討論では高校生のみなさんにもすごく貴重な意見も発表していただき、有意義な会議になったことに感謝する。

本日の会議の意見や発表など今後のビジョンの見直し、また、平素のビジョン委員会の活動にもつなげていきたい。皆さんのご協力のもと西播磨を元気に、そして西播磨から幸せを発信していきましょう！

西播磨地域夢会議各テーブル意見～抜粋・要約～

意見総数４１１件

テーブル番号	テーマ	意　見
１～４	健やかな子どもと育てよう	・基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・両親が良い行いの手本を示す。親の教育。 ・食育、地産地消を推進し自給率の高い地域にしたい。 ・学校、地域、家庭の情報共有と支え合い ・世代間の交流、ふれあう場所・時間の構築 ・親子の日を作る。（子どもの行動に親が参加する日） ・子どもが少なく、結婚しても都会で生活している。 ・子ども医療の充実 ・登下校、遊び場、公園の安全管理 ・子育て世代への理解と見守り
５～７	子ども達に贈る安心な西播磨	・地域の顔が見えるまちづくり ・子ども達の見守り等の防犯活動グループ支援 ・家庭での減災対策、家具の固定化の推進 ・自主防災組織、自治会等の活動を活性化する ・義務化された火災報知器の取り付けの普及 ・祭りや冠婚葬祭の付き合いをする。（地域のつながり） ・地域で情報、食料等を必ず確保できる施設を確立 ・自分の命は自分で守る
８～１１	西播磨の豊かな自然と農村の振興	・若い人が農村生活できる環境づくり ・人工干潟でもいいから子どもが水遊びできる海岸に ・間伐材の利用で整備された災害に強い森林にする ・獣害減少策の推進、動物と共生できる仕組みづくり ・体験農業、いなか暮らし、有機農業を３つの輪として都会との交流を図りたい。 ・荒廃田に山菜等を植栽して山菜狩りに使う ・森、川、海の環境改善 ・団塊世代の活用、ふるさとへ帰る機会を作る。
１２～１５	伝えたいふるさとの誇り	・伝統、文化、自然、特産品、科学技術、人など知られていない地域資源がたくさんある。 ・中山間地域 そこそこ都会に近い、そこそこへんぴ！ ・知り合いだらけという安心感 ・まず自分達で歩いてみる ・イベント、新聞、ＴＶ等を通じての情報発信、都市と農村の交流をはかりたい ・人材育成、ネットワークの再構築、課題の共有